

特定非営利活動法人エフエムわいわい 2019年度通常総会議事録

1. 日時 2019年6月15日(土) 午後1時から午後3時30分まで

2. 場所 神戸市長田区海運町3丁目3番8号 カトリックたかとり教会食堂

3. 開会あいさつ 代表理事 大川妙子

4. 議長選任に関する事項

議長に、長谷部治が満場一致で選任された。

5. 書記選任に関する事項

平野由美子が推薦された。

6. 総会議事録署名人選任に関する事項

佃由晃、緒方和也が立候補した。

5. 正会員の総数、並びに参加正会員、欠席正会員からの委任数について確認した。

正会員数 24名

出席正会員数 13名(スカイプ参加1名を含む)

委任 9名

欠席 2名

以上定数の半数を満たしているため、この総会は成立することを議長が宣言。
下記議案につき審議・討議した。

6. 審議事項

第1号議案 2018年度事業報告(案)承認の件 (別紙事業報告資料参照)

・総括 担当：金

FMYYの形態は年代により変化してきたが、その原点は1995年阪神・淡路大震災での在日コリアンが、同胞の安否を確認するための「呼びかけ」であった。この原点を大事にしながら、時代に合わせ、社会の求めに応じ、コミュニティメディアとして身の丈に合った形態としてのインターネット配信となった。2016年4月から本日まで、インターネット配信のその活用方法を模索し活用のための期間であった。

特に定住外国人が住みやすい日本をつくるため自分たちのコミュニティにむかって発信する番組の現実的な重要性は、ラテンの番組が体現している。これは「声を出していく」、排除されがちな人々のための発信の場、FMYYの存在の社会的意義を体現していると言える。この「場」の継続のための知恵を集めてゆきたい。

・事業報告

①コミュニティメディア事業 担当：金

テレビのようにラジオのようにクリックするとパソコンや端末からFMYYの番組が12時から20時まで流れてくるという形態は終了するという番組制作自身が理解していく周知徹底の期間となった。今までもこれからも重要なコンテンツが集積していることは、全く違った視点での解析を「神戸ソーシャルブリッジ」のプロボノの5人の人たちが「見える化」してくれたことは大きな収穫であった。

②イベント 担当：金

地域の中で多様な視点はもちろん災害についての提言も行い、インドネシア業務との繋がりも生まれてきている。

③海外業務 担当：日比野

1995年1月30日から始まった「FMヨボセヨ（FMYYの最初）」は、アジア太平洋地域はじめ世界のいろいろなコミュニティFMとの繋がりが広がっている。2004年以降の様々な世界との繋がりの中で「コミュニティラジオ」が大きな役割をなすということが世界の人々にも認識され始め、その先駆的な取り組みが、神戸・長田のFMYYである。

2012年JICA兵庫（現JICA関西）のインドネシアにおける草の根事業により、世界にこの取り組みについて積極的に伝えてきた。インドネシアは日本と同じく災害が多く、2014年には、実際に来日してもらい、日本の被災地訪問も実施した。

2018年は、特にインドネシアでの災害が多く、JICAでの事業のみならずいろいろな支援を行ったことで、現地でも制度化の動きとなった。

インドネシアでのAMARC・APの会議では、FMYYのスタッフのみならず、以前から被災地支援で連携しているBHKテレコム支援協議会やFM和歌山などにも参加いただき、横のつながり、国境を越えた繋がりが見えてきた1年だった。

・議長より、2018年度事業報告（案）配布資料の訂正箇所2か所についての説明があった。

以上をもって出席正会員（スカイプ1名含む）14名に挙手（スカイプ正会員には確認）をもって決がとられ、賛成多数をもって、2018年度事業報告は承認された。

第2号議案 2018年度決算報告（案）承認の件（別紙決算報告資料資料参照）

・会計担当の古寺より説明。

・監査報告は、森崎清登、高龍弘両監事のより適正に処理されていることを宣言。

以上をもって議長より、決算報告案が挙手をもって決がとられ、この2018年度活動計算書事業報告は承認された。

【組織の会計の対する意見】

・高監事より全体額のボリュームームは大さいが、海外業務のJICAの金額を外すと実際の事業基盤は非常に小さい。この点は今後を考える憂慮するところがある。

・森崎監事より、事業報告にあるFMYYの歴史の中で身の丈に合った事業体に変え、経費節減をしてきたことを考えると、反対に伸びしろがあるという見方もあるという意見。

・日比野理事より、FMYYの活動は謝金の発生しない多くの人々の活動を加味しなくてはならない。NPOの会計には算入する方法があるが、導入は難しいだろうか？

・長谷部理事より、参加人数の時間給で計算するとNPO団体のその規模は大きく姿が変わり企業と同等の基準で事業規模を図ることができるが大きな手間がかかるので実施しなくて良いのではないかと。

- ・緒方理事より、事務局業務に対する稼働時間は産出していただいた方がよいのではないかと。
- ・日比野理事より、JICA業務は日報をつけている。
- ・吉富正会員より、FMYYはボランティアから始まっている。しかしそこから協働事業体で運営し雇用という形式も生まれたが、「みんなのラジオ」というFMYYの理念に戻り、完全ボランティア団体に戻った。ここでの話の流れを見ているとまた同じ繰り返しになるように感じる。
- ・長谷部議長より、これからのFMYYを見据えた話に広がり重要な案件。FMYYのもつ永遠の課題かもしれない。

7. 報告事項

- 1) 2019年度事業計画
 - ・代表理事大川より今後のFMYYの新たな形を説明。
 - ・今後の配信に関する大きな転換として、2019年7月からは完全にインターネットメディアになることへのいろいろな取り組みと新たなWEB SITEの構築を伝えた。また外部人材、2018年にFMYYの解析のためにきてもらった「神戸ソーシヤルブリッジ」のプログラマーの方にコンサルに入ってもらい中長期ビジョンを構築する予定。
 - ・より見やすい、人を集客するWEB SITEに変革していく。
 - ・事務局運営についても、効率的な配置を考え、負担が一人に集中しないよう、担当を案分しよりたくさんの人々が参加、担当するよう分配していく。
 - ・海外業務もより充実し、国際との連携をとっていくため、大学のフィールドワークやTCCの団体などを受け入れていく。
 - ・震災25年にむけて、アンケート調査・論文制作・国内外の語り部のフォーラムに参加していく。

2) 2018年度活動予算

- ・金より上記計画・予算は理事会理事会での提案決議事項を報告。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を直した。
以上の議事の要領及び結果を明確にするため、議長並びに議事録署名人は次に記名押印をする。

2019年6月22日

特定非営利活動法人エフエムわいわい 2019年通常総会

議長  長谷部治

議事録署名人  伊 由晃

議事録署名人  緒方和也

